

みなみのうお座

みなみのうお座は、古代ギリシャの天文学者プトレマイオスが定めた歴史ある 48 星座の一つです。星空の図では、隣のみずがめ座の水瓶からこぼれ落ちる水を、大きな口を開けて呑みこんでいる姿で描かれています。また、うお座の二匹の魚の「親魚」とする説もあります。

この星座で最も有名なのが、魚の口の位置で輝く一等星「フォーマルハウト」です。名前もアラビア語で「魚の口」を意味する言葉に由来しています。明るい星が少なく、少し寂しい秋の南の空でぽつんと一つだけ輝く姿から、日本では「南のひとつ星」という名前で呼ばれることもあります。

天文学的な性質を見ると、フォーマルハウトは地球から約 25 光年の距離にある星です。表面温度は約 9300K と太陽（約 6000K）よりも高く、白く輝いて見えます。直径は太陽の約 1.9 倍あり、周囲を巡る伴星の存在なども観測されています。そして、秒速 7 キロメートルというスピードで、私たちから遠ざかり続けていることも知られています。

秋の夜長、南の空低くに静かに光る「南のひとつ星」を探し、古代から人々に親しまれてきた夜空の姿に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）、夜空を直接手ではかる！かならず見つかる星座の本 秋の星座を手でさがそう（藤井旭著 / 偕成社）



今月の見どころ星どころ

230 万年の時を越えて届く光

文・浜松市天文台
村松 大河

秋が深まり、空気がぐっと冷え込んで澄み渡る季節になりました。11 月の宵、暗い空を見上げると、ぼんやりとした淡い光のしみが浮かんで見えます。これが秋の夜空の一番の見どころ、「アンドロメダ銀河」です。

地球から肉眼で見える最も遠い天体で、その距離は約 230 万光年。光の速さでも 230 万年かかる果てしない彼方で、数千億個もの星々が美しい渦を巻いています。

この銀河を真上から見ると円形ですが、地球からは 77 度傾いた斜めの角度で見ているため、細長い楕円形に見えます。また、私たちの銀河系に近付いており、遠い将来には衝突して合体すると考えられています。

肉眼ではかすかな光ですが、双眼鏡を使うと明るい中心部と周囲に広がる構造が確認できます。230 万年前、まだ人類が生まれる前の時代に銀河を出発した光が、今まさにあなたの目に届いています。秋の夜長、双眼鏡を片手に遠い宇宙からの光を受け止めてみませんか。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）


▲アンドロメダ銀河（写真：Adam Evans /CC BY 2.0）

星空クイズ

QA

アルファベットの「W」の形をした「カシオペヤ座」。この星座を使って探すことができる、真北にあるほぼ動かないように見える星は何？

A　北極星
B　昴（すばる）
C　シリウス

答えは中面へ

「星空案内」2026 年 11 月号　制作・発行

浜松市天文台
〒430-0836　浜松市中央区福島町 242-1
TEL：053-425-9158　E-Mail：hao@city.hamamatsu.shizuoka.jp

浜松科学館 Hamamatsu Science Museum
〒430-0923　浜松市中央区北寺島町 256-3
TEL：053-454-0178　E-Mail：info@mirai-ra.jp　www.mirai-ra.jp

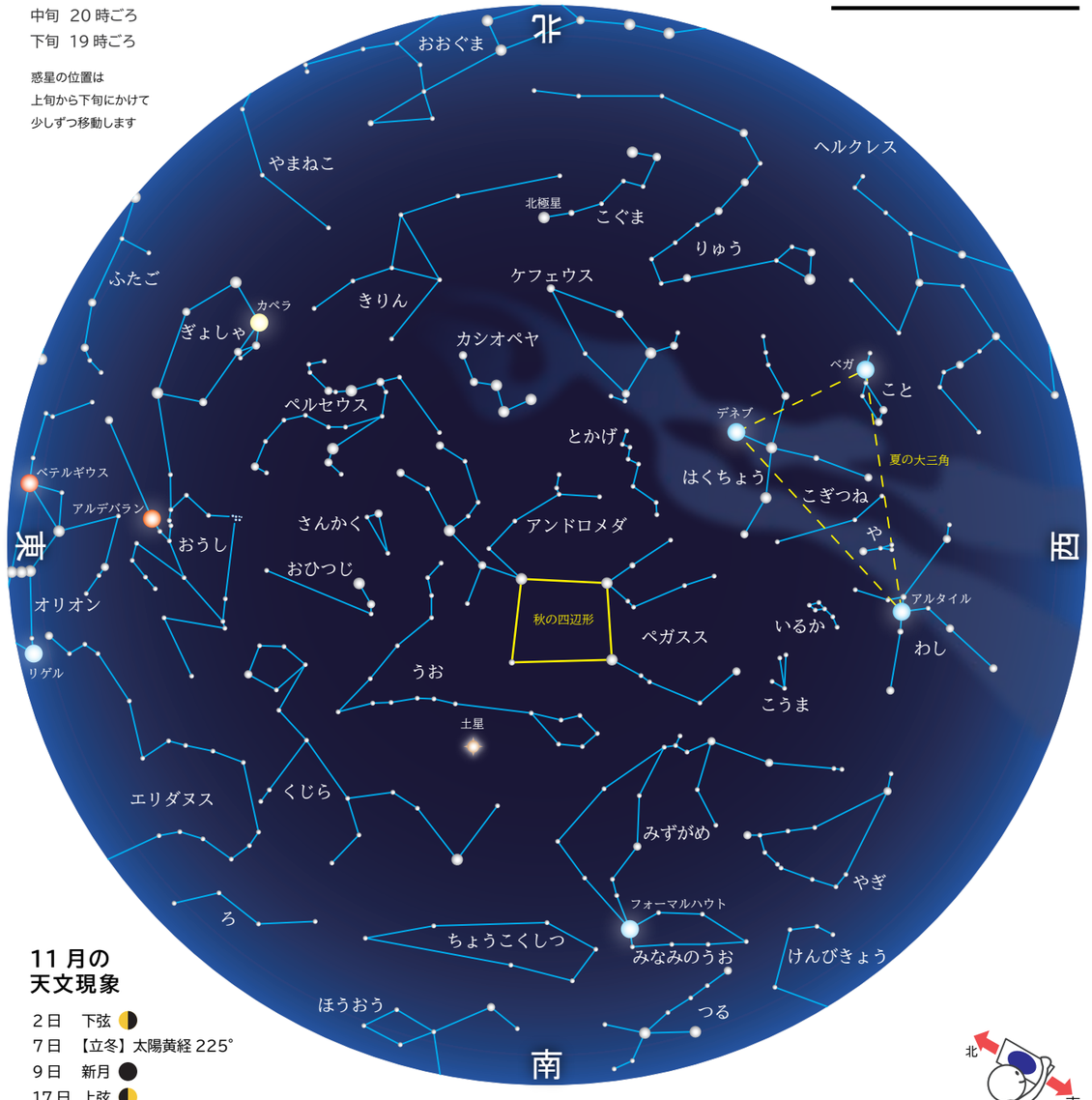
星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

2026 **11**

2026 年 11 月
上旬　21 時ごろ
中旬　20 時ごろ
下旬　19 時ごろ

惑星の位置は
上旬から下旬にかけて
少しずつ移動します



11 月の天文現象

2 日　下弦
7 日　【立冬】太陽黄経 225°
9 日　新月
17 日　上弦
18 日　しし座流星群が極大
22 日【小雪】太陽黄経 240°
24 日　満月
26 日　天王星が衝
30 日　金星が最大光度（-4.9 等）



上の星図は、空にかざして
実際の方角と合わせてご覧ください。

北風が吹き抜け、いよいよ冬の足音が聞こえる 11 月。この時期の夜空は、夕方から宵の時間帯にかけて木星や土星といった大きな惑星たちが存在感を放ちます。深夜には「オリオン座」など賑やかな冬の星座たちも勢ぞろい。暖かい飲み物を片手に防寒対策をしっかりして、きらめく星々を楽しんでみませんか？


NASA/JPL-Caltech/
Space Science Institute



浜松市天文台

OK 天候不良開催　NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら

イベント情報

天文台ウェブサイトよりお申込みください。

11/7・14・21・28（土）NG 星空観望会 宇宙へのとびら in はままつ



季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時 間 19:30～21:00　会 場 天文台屋上

申し込み 開催日 3 日前の水曜 13 時から受付（30 分ごと先着 20 組）

11/1（日）NG 太陽・昼間の星 観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、昼間に見える天体を観望します。

時 間 14:00～16:00　会 場 天文台屋上

申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。



11/7（土）OK めざせ！望遠鏡マスターコース

基本の操作技術を習得できます。星空観望会でも練習を重ねて、自分の力で星を見つけましょう。

時 間 17:30～18:30　会 場 2F講座室

申し込み 11/4（水）13 時から受付（先着 10 組）　対 象 小中学生



11/8（日）OK 望遠鏡講座～望遠鏡の「困った」解決～

望遠鏡の仕組みを学び、実際に操作を体験します。使い方の相談、購入前の検討のヒントに。※望遠鏡持ち込み OK

時 間 18:00～20:00　会 場 2F 講座室 / 天文台屋上

申し込み 10/28（水）13 時から受付（先着 5 組）



11/15（日）OK 星と景色の写真講座～一眼レフの撮り方教室～

三脚と一眼レフカメラで、星の写った風景写真を撮影するための入門講座です。設定から、丁寧に解説します。

時 間 18:30～21:00　会 場 2F 講座室 / 天文台屋上

申し込み 11/4（水）13 時から受付（先着 6 組）



11/22（日）NG メシエウォーキング～電子観望で星雲・星団をめぐろう～

高感度ビデオカメラを使って星雲や星団の電視観望を楽しみましょう。天体のデータをプレゼントします。

時 間 19:00～21:00　会 場 天文台屋上

申し込み 11/11（水）13 時から受付（先着 10 組）



11/28（土）OK 天文ミニ講座～今夜の星空がもっと楽しくなる～

星座と今夜の星の見どころについて、星空案内人がお話します。星空観望会で、星空を見るのがより楽しめます。

時 間 17:30～18:20　会 場 2F 講座室

申し込み 11/25（水）13 時から受付（先着 10 組）



12/5（土）NG スマホ de 星空写真～スマホで星空写真を撮ろう～

スマホのナイトモードや夜景モード等を使って、きれいな星空の写真を撮影しましょう。

時 間 17:30～18:30　会 場 2F 講座室

申し込み 11/25（水）13 時から受付（先着 10 組）



12/14（月）OK ふたご座流星群観望会

話題の流星群をみんなで楽しもう。温かい服装でお越しください。

時 間 19:00～23:00　会 場 天文台屋上

申し込み 11/25（水）13 時から受付（2 時間ごと先着 30 組）



裏面のクイズの答え：正解は A（北斗七星が見えにくい時期は、カシオペヤ座で北極星を探すことができます。航海や方位の確認には欠かせない星です。）

星空を楽しむ

「秋宙（あきぞら）の旅」

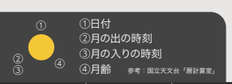
文・浜松市天文台事業協力者の会　中嶋敏勝

秋の空には明るい恒星が少なく、夏や冬に比べると少々寂しい星空です。しかし、秋の夜空にはお隣の銀河、アンドロメダ銀河を見ることができます。また、アンドロメダ銀河のように有名な天体ではありませんが、ペガスス座の鼻先に M15 という球状星団があります。球状星団は、数万個から数十万個もの恒星が密集し、私たちの天の川銀河を取り巻くように分布しているそうです。宇宙の初期に誕生したものが多く、M15 はその中でも特に古い球状星団で、地球から約 3 万 5000 光年の距離にあります。



この M15 球状星団、望遠鏡を通して見ることができます。天の川銀河の円盤の外、ハローという場所にありますので大変遠く、ぼやっと雲のようにしか見えないのですが、夜空の条件がよいときには星の集まりを感じることができます。

秋になると、今年も土星が夜空にのぼります。見応えがあるのは、圧倒的に土星ですが、もし機会があれば太陽系から遠く離れた宇宙も探検してみてください。



11/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
22:40	23:50	--:--	0:56	2:00	3:03	4:04	5:06	6:08	7:10	8:10	9:06	9:57	10:41	11:19	11:53	12:22	12:49	13:15	13:41	14:08	14:39	15:16	16:01	16:55	18:00	19:13	20:27	21:40	22:49
12:21	12:59	13:31	14:00	14:27	14:53	15:20	15:49	16:22	16:59	17:42	18:31	19:25	20:22	21:21	22:20	23:20	--:--	0:19	1:19	2:22	3:28	4:38	5:52	7:08	8:19	9:22	10:15	11:03	11:33
21.5	22.5	23.5	24.5	25.5	26.5	27.5	28.5	29.5	0.8	1.8	2.8	3.8	4.8	5.8	6.8	7.8	8.8	9.8	10.8	11.8	12.8	13.8	14.8	15.8	16.8	17.8	18.8	19.8	20.8
	上弦							新月								上弦							満月						



浜松科学館

ブログはこちら

プラネタリウム番組情報・イベント情報

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」をお楽しみいただけます。

プラネタリウム



星降るクリスマス

クリスマスの星についてご案内します。

平日	14:20～15:15
土日祝	13:00～13:55 15:40～16:35



星空マルシェ

気軽に観られる生解説のプラネタリウムです。

平日	15:40～16:20
土日祝	10:30～11:10

キッズプラネタリウム



きらきら☆こんやのおほしさま

土日祝	11:30～12:05 14:20～14:55

夜の科学館　特別投映



秋の星座と神話

11/28（土）	18:00～18:40 19:00～19:40

天体観察会



まちなか天体観察会

11/20（金）	18:30～20:30

特別イベント



熟睡プラ寝たリウム

11/23（月）	17:30～18:45

「まぁ、きれい！」なマーキュリー

column

文 / 浜松科学館 天文チーム 長嶋理子

今の時期、秋の星たちが見ごろです。ただ、他の季節に比べると、秋の星たちは暗い星が多く控えめな星空にも感じます。ですが今年の 11 月は、普段はなかなか見ることができない星を見るチャンスがやってきます。

それは水星です。名前自体は聞いたことがある方も多いでしょう。私たちのいる地球と同じく、太陽の周りをまわる太陽系の仲間、「惑星」のひとつです。実は、太陽系の惑星を見ること自体はそれほど難しくありません。金星、火星、木星、土星などはとても明るく輝くため、街中でも簡単に見つけることができます。特に火星、木星、土星は時期によっては一晩中見える時もあります。

ただ、水星はそう簡単には見つけられません。めったに見ることができない最大の理由は、水星が太陽系の惑星の中で一番太陽に近いところをまわっているからです。いつも太陽の近くにいるため、空に姿を現してくれる時間がとても短いのです。

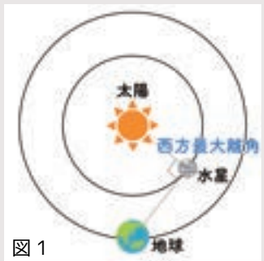


図 1

しかし、年に何回か水星が見やすくなるタイミングがあります。それが「最大離角（さいだいりかく）」（図 1）と呼ばれる時期です。これは、地球から見て水星が太陽から一番遠く離れる位置にくることを指します。太陽のすぐ近くに星があるときは、太陽のまぶしい光に隠れてしまって見ることができません。そのため、太陽から離れれば離れるほど、空で見つけやすくなるというわけです。

そして今年の 11 月 21 日、水星はこの最大離角を迎えます。これは今年最後となる水星の最大離角でもあります。11 月 21 日の最大離角は水星が太陽から最も西側に離れる「西方最大離角」で、明け方に見やすくなります。ただ、この日しか見えないわけではありません。前後 1 週間ほどは観測がしやすくなります。探すときは、東の方角に建物や山が少なくて地平線が見渡せる、開けた場所を選ぶのがポイントです。少し早起きをして、朝 5 時半ごろから東の空を眺めてみてください。空の高いところでまぶしく輝く金星より、少し低いところで水星が輝いています。めったに出会えないレアな惑星を、ぜひ探してみませんか？

